

評価項目	取り組み状況
<p>教育・保育方針 教育及び保育の目標 全体計画・指導計画 こども園として特に配慮すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育・保育課程 ・教育環境の整備 ・研究の取り組み 等 	<p>「友だちと遊ぶ中で五感を使って表現することを楽しむ ～違いを認め合い人とかかわる力をはぐくむ～」を研究テーマとし、大谷大学の塩見先生からは造形表現について理論と実践を学び、子どもの年齢に合わせた教材の選び方、偶然の面白さや、子どもと一緒に発見したり喜んだりできる制作遊びをすることで、子どもが自信をもって活動できることを学んだ。げんキッズの講師でもある服部先生からは運動遊びのルールを伝える時にはみんながわかるルールを一つずつ増やし、繰り返し遊んでいくことで無理なく理解できることを学び、普段の遊びや造形活動で実践していくことができた。</p>
<p>健康支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ流行で閉鎖していたプール活動を3年ぶりに行った。健康観察、入水時間、人数配慮を行い感染もなく終えることができた。 ・コロナの他にインフルエンザが流行し幼児クラスで学級閉鎖した。感染性胃腸炎も流行り、保育室やおもちゃ等の消毒方法の確認をした。
<p>安全管理</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・食物アレルギー児童に対しての誤食が2度あった。土曜日の合同保育時と担任不在のときに起きた。再度全職員でアレルギーマニュアルを確認し、口頭での確認事項を増やし再発防止に努めた。 ・毎月の安全点検を実施し修繕修理は速やかに行った ・水消火器を用いて職員、野田センター職員と合同で訓練を行った。
<p>食育の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児クラスは園庭の畑で、乳児クラスは2階テラスで菜園活動を行った。収穫した野菜で各クラスクッキングを行い身近な野菜の成長に触れることができた。 ・「春の集い」では厨房職員から豆の話を聞き、玄関でもやしを水栽培し、大豆からもやしができる様子を興味深く園児が観察していた。
<p>子育て支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入園している子どもの保護者 ・地域の子育て家庭 ・地域との連携 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・在園児の保護者の悩みに寄り添い話しやすい雰囲気づくりに努めた。加配児童の保護者同士つながれるよう、「おはなし会」を2回開催した。クラスの枠を超えて悩みや相談ができ、情報共有の場となった。 ・コロナ禍で園児と地域の親子の直接的な交流はできなかったが、年長児が会場準備の手伝いをしたり、ホールで遊ぶときに園児が声をかけたり体操や行事の練習をみてもらったりなど交流以外での関わりの工夫ができた。
<p>教育・保育内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・養護・健康・人間関係 ・環境・言葉・表現 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナウイルスだけでなくその他の感染症の感染対策も取りながら各学年教育保育の工夫をしてきた。コロナウイルスの感染対策が緩和しつつある中で友達との関係作りや、他学年との交流も少しずつ取り入れていった。乳児保育の中で大切な一つである生活面も、保育教諭との関わりをもとに乳児にわかるように工夫した保育をしてきた。 ・保育の中で大切にしていることや、関わりの中で育ってきている姿や年齢・発達別の遊びの姿などを保護者に伝えるために、ドキュメンテーションやクラスノート、おたよりなどを利用して伝えていった。

<p>特別支援教育</p>	<p>大阪府立支援学校や児童発達支援センターの巡回指導でアドバイスを 受け、一人一人の子ども理解を深め発達に応じた必要な支援に努め た。クラスの中では子どもたちが一人一人の気持ちの表出方法に違い があることに気づきながら生活や遊びを楽しんでいくことを大切に教 育保育してきた。園児が通っている療育施設の訪問事業と連携し、園 での様子を知ってもらいそれぞれの支援の中身を確認した。</p>
<p>職員の資質の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・公開保育を実施し、職員間で意見を出し合い各クラスの課題を明確に することで、次への活動内容の検討ができた。 ・人権研修では差別の実態を知り子どもたちが一人一人の違いを認め 合い人と関わる力を育むために大人の価値観や関わり大切さを学 んだり、自分自身の心の健康について見直したりした。小グループ でグループワークをすることで忌憚ない意見交流ができ、大人も子 どもも一人一人大切な存在で守られるべき存在であることを共有で きた。
<p>幼保こ小中の連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・幼保こ小連絡業議会に参加し「遊びの中の『学び』を捉え小学校へつ ないでいく」をテーマに話し合いを行った。どの園も子ども同士が話 し合いを行い考えを伝え合うことを大切にしていることが確認でき た。幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿の「協同性」「言葉に よる伝え合い」の育ちについて話を深めることができた。 ・新1年生となる年長児の引継ぎを小学校と面談や電話等で丁寧に行っ た。
<p>関係者評価の取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・評議員会を年3回行った。4歳児クラスの公開保育や地域支援センタ ーの取り組みをみていただいた。子ども同士誘い合ったり、ケンカし て思いを伝え合ったりしている様子を見て、子どもの社会性の育ちの ために職員の子どもへのかかわり方について評価していただいた。 ・子ども相談課を中心に、必要に応じてケース会議を行うなど連携し支 援の必要な家庭について情報を共有し対応してきた。
<p>その他</p>	<p>さくら学園中学1年生による保育体験で中学生との交流ができた。短い 時間ではあったが中学生にとっても乳幼児との関わりで自信を持た 生徒がいたと報告があり、今後も連携していきたいと感じた。</p>

○今後取り組むべき課題（重点的に取り組むべき課題）

課 題	具体的な取り組み方法
<p>あそびについて、1歳児から5歳児まで のあそびの連続性を考える</p>	<p>ごっこ遊び、感触遊び、食育など子どもの現状に合わせた活動 に焦点を当て、職員で子どもの活動、環境について研究し、年間 計画を立てて取り組む。</p>
<p>コロナ禍での制限が緩和されたときに、 異年齢交流や地域交流の活動を工夫す る。</p>	<p>経験の浅い職員はコロナ禍での教育保育しか経験していない。 たてわり活動や、クラスが中心になって行う「いっしょにあそ ぼう（地域交流）」をねらいや環境設定、配慮、準備など丁寧に 確認しながら計画を立てていく。</p>

令和5年（2023年）3月31日

豊中市立野田こども園

園長名 百田 寿美子